

10/534976

DOCKET NO.: 272239US0PCT

JC20 Rec'd PCT/PTO 1 6 MAY 2005

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Soichiro WATANABE

SERIAL NO.: NEW U.S. PCT APPLICATION

FILED: HERewith

INTERNATIONAL APPLICATION NO.: PCT/JP03/12773

INTERNATIONAL FILING DATE: October 6, 2003

FOR: COSMETIC PACK PREPARATION

REQUEST FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C. 119
AND THE INTERNATIONAL CONVENTION

Commissioner for Patents
Alexandria, Virginia 22313

Sir:

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicant claims as priority:


COUNTRY
Japan

APPLICATION NO
2002-333010

DAY/MONTH/YEAR
18 November 2002

Certified copies of the corresponding Convention application(s) were submitted to the International Bureau in PCT Application No. PCT/JP03/12773. Receipt of the certified copy(s) by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.

Respectfully submitted,
OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,
MAIER & NEUSTADT, P.C.



Norman F. Oblon
Attorney of Record
Registration No. 24,618
Surinder Sachar
Registration No. 34,423

Customer Number
22850

(703) 413-3000
Fax No. (703) 413-2220
(OSMMN 08/03)

06.10.03

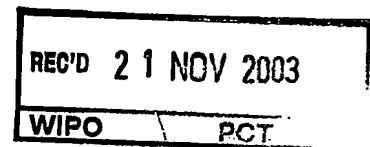
日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2002年11月18日

出 願 番 号
Application Number: 特願2002-333010
[ST. 10/C]: [JP2002-333010]



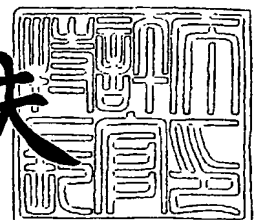
出 願 人
Applicant(s): 株式会社コーセー

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年11月 7日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 P0001550

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61K 7/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都北区栄町 4 8 番 1 8 号 株式会社コーセー研究本部内

【氏名】 渡辺 総一郎

【特許出願人】

【識別番号】 000145862

【住所又は居所】 東京都中央区日本橋 3 丁目 6 番 2 号

【氏名又は名称】 株式会社コーセー

【代表者】 小林 保清

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 054759

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 パック化粧料

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 次の成分 (a) 及び (b) ；

(a) ポリビニルアルコール 5～20 質量%

(b) チタン・酸化チタン焼結物 0.01～10 質量%

を含有することを特徴とするパック化粧料。

【請求項 2】 さらに、成分 (c) として水溶性増粘剤を含有することを特徴とする請求項 1 記載のパック化粧料。

【請求項 3】 さらに、成分 (c) の水溶性増粘剤が、水膨潤性粘土鉱物及び／または不定形微粒子無水ケイ酸であることを特徴とする請求項 2 記載のパック化粧料。

【請求項 4】 さらに、成分 (d) としてアニオン性界面活性剤を含有することを特徴とする請求項 1～3 記載のパック化粧料。

【請求項 5】 さらに、成分 (d) のアニオン性界面活性剤が、リン酸エステル型アニオン性界面活性剤、スルホン酸塩型アニオン性界面活性剤、硫酸塩型アニオン性界面活性剤から選ばれる一種または二種以上であることを特徴とする請求項 4 記載のパック化粧料。

【請求項 6】 さらに、成分 (a) のポリビニルアルコールが、(A) 4 質量%濃度水溶液の 20℃における粘度が 1 mPa・s 以上 30 mPa・s 未満の粘度範囲にあるポリビニルアルコールと (B) 4 質量%濃度水溶液の 20℃における粘度が 30 mPa・s 以上 70 mPa・s 未満の粘度範囲にあるポリビニルアルコールの混合物からなることを特徴とする請求項 1～5 記載のパック化粧料。

【請求項 7】 さらに、成分 (a) のポリビニルアルコールの (A) / (B) の質量比が、0.05～2であることを特徴とする請求項 6 記載のパック化粧料。

【請求項 8】 さらに、成分 (e) として水溶性アスコルビン酸誘導体及び／または水溶性グリチルリチン酸誘導体を含有することを特徴とする請求項 1～

7 記載のパック化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、パック化粧料を塗布した箇所、はがした箇所、及び皮膚清浄効果を明確に識別でき、塗布のしやすさ、はがしやすさといった使用感が良好で、且つ、経時における保存安定性に優れた被膜形成型のパック化粧料に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、パック化粧料は、皮膚を被膜で一定時間被覆し、この間に水分を皮膚に補給したり、皮下からの水分の蒸発を抑えて肌を柔軟にする効果を付与するものとして市販されている。形態としては塗布後の乾燥によりフィルムを形成し、これをはがし取るピールオフタイプ、クリーム状または泥状で塗布後拭き取りまたは洗い流すタイプ、不織布にローションを含浸させたタイプ等がある。この中でも、ピールオフタイプのパックは、被膜形成剤の吸着効果により皮膚に付着した汚れや古い角質層を取り除く清浄効果も兼ね備えており、その代表的な被膜形成剤として、ポリビニルアルコールが挙げられる。また、ポリビニルアルコールを被膜形成剤としたピールオフタイプのパックの乾燥速度を速めたり、被膜強度をあげる為、粉体を配合する試みがなされている。（例えば、特許文献1参照。）

。

【0003】

【特許文献1】

特開平10-245320号公報

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、ポリビニルアルコールを被膜形成剤として含有したパック化粧料において、塗布した箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果を明確に識別できようにするために、酸化チタンやベンガラ、黄酸化鉄、黒酸化鉄等の着色顔料を配合

した場合、着色顔料の表面活性の影響で分散安定性が悪くなり、製剤としての保存安定性を損なうことが多かった。さらに、パック化粧品に美白効果や消炎効果を付与するために、水溶性アスコルビン酸誘導体や水溶性グリチルリチン酸誘導体等の有効成分を配合した場合、着色顔料の分散性を著しく低下させ、さらには、有効成分の保存安定性を低下させるといった問題点があった。一方、着色剤として水溶性染料を配合した場合、十分な隠蔽力を確保すると皮膚へ染着してしまうといった問題点があった。従って、塗布した箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果を明確に識別でき、塗布のしやすさ、はがしやすさといった使用感が良好で、且つ、経時における保存安定性に優れた被膜形成型のパック化粧料の開発が望まれていた。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本発明者は、上記実状において鋭意検討を重ねた結果、ポリビニルアルコールとチタン・酸化チタン焼結物を組み合わせて用いることにより、塗布した箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果が明確に識別でき、塗布のしやすさ、はがしやすさといった使用性が良好で、且つ、経時における保存安定性に優れた被膜形成型のパック化粧料が得られることを見出し本発明を完成させた。

【0006】

すなわち本発明は、次の成分（a）及び（b）；

（a）ポリビニルアルコール 5～20質量%

（b）チタン・酸化チタン焼結物 0.01～10質量%

を含有するパック化粧品である。さらに、成分（c）として水溶性増粘剤を含有するパック化粧品である。さらに、成分（c）の水溶性増粘剤が、水膨潤性粘土鉱物及び／または不定形微粒子無水ケイ酸であるパック化粧品である。さらに、成分（d）としてアニオン性界面活性剤を含有するパック化粧品である。さらに、アニオン性界面活性剤が、リン酸エステル型アニオン性界面活性剤、スルホン酸塩型アニオン性界面活性剤、硫酸塩型アニオン性界面活性剤から選ばれる一種または二種以上であるパック化粧品である。さらに、成分（a）のポリビニルアルコールが、（A）4質量%濃度水溶液の20℃における粘度が1mPa・s以上

30 mPa・s 未満の粘度範囲にあるポリビニルアルコールと (B) 4 質量%濃度水溶液の 20℃における粘度が 30 mPa・s 以上 70 mPa・s 未満の粘度範囲にあるポリビニルアルコールの混合物からなるパック化粧料である。さらに、成分 (a) のポリビニルアルコールの (A) / (B) の質量比が、0.05 ~ 2 であるパック化粧料である。さらに、成分 (e) として水溶性アスコルビン酸誘導体及び／または水溶性グリチルリチン酸誘導体を含有するパック化粧料である。

【0007】

以下、本発明の構成について説明する。

本発明に用いられる成分 (a) ポリビニルアルコールは、化粧品原料として公知のものであり、ピールオフタイプのパック化粧料に多く用いられているものである。ポリビニルアルコールは重合度とけん化度の違いによっていくつかのグレードに分けられたものが市販されている。重合度は通常 4 質量%濃度水溶液の 20℃における粘度を測定することによって示される。本発明においては、いずれの粘度のものも使用することができるが、塗布のしやすさ、はがしやすさといった使用感の点から、(A) 粘度が 1 mPa・s 以上 30 mPa・s 未満の粘度範囲にあるもの、(B) 粘度が 30 mPa・s 以上 70 mPa・s 未満の粘度範囲にあるものを組み合わせて使用することが好ましい。(A) 粘度が 1 mPa・s 以上 30 mPa・s 未満の粘度範囲にあるポリビニルアルコールとしては、具体的には、PVA-103、110、205、210、217、613、706 (クラレ社製) 等が挙げられる。これらの中でも、3 ~ 10 mPa・s のものが特に好ましい。(B) 粘度が 30 mPa・s 以上 70 mPa・s 未満の粘度範囲にあるポリビニルアルコールとしては、具体的には、PVA-120、124、220、224、228 (クラレ社製) 等が挙げられる。これらの中でも、40 ~ 60 mPa・s のものが特に好ましい。一方、けん化度はポリビニルアルコールの製造時におけるポリ酢酸ビニルのアセチル基のけん化の割合によるもので、ほぼ完全にけん化を行った完全けん化型とアセチル基をある程度残した部分けん化型とに大きく分けられる。本発明においては、いずれのけん化型のものも使用することができるが、部分けん化型のポリビニルアルコールを用いる方が好ましい

【0008】

本発明のパック化粧品における、成分（a）ポリビニルアルコールの含有量は、パック化粧品中5～20質量%（以下、単に「%」と記す）であり、特に7～15%がより好ましい。5%未満では、塗布時にたれ落ちしやすく、また、被膜形成性が不十分であり、はがしにくいものとなる。また、含有量が20%を超えると粘度が高くなるため使用の際に伸ばしにくく、経時でゲル化する等の保存安定性が悪くなる。また、成分（a）中の（A）／（B）の質量比は、特に限定されるものではないが、さらに使用性を向上させる為には0.05～2が好ましく、0.1～1.5がより好ましい。

【0009】

本発明に用いられる成分（b）チタン・酸化チタン焼結物は、パック化粧料の隠蔽力を高め、塗布した箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果を明確に識別しやすくし、乾燥速度を速め、さらに、被膜強度を高めて、はがしやすくするために含有されるものである。成分（b）チタン・酸化チタン焼結物は、従来使用されていた酸化チタンや黒酸化鉄に比べ、粉体表面の表面活性が低いため、ポリビニルアルコールを含有したパック化粧品において、製剤としての保存安定性を損なうことなく、優れた分散安定性を確保することができるものである。成分（b）のチタン・酸化チタン焼結物は、通常化粧品に使用されているものであれば特に限定されず、例えば、チタン粉末と酸化チタンを1：5の割合で混合し、これを減圧下で3～5時間、900～1000℃で焼結したものが挙げられる。成分（b）のチタン・酸化チタン焼結物の平均粒径は、隠蔽力、顔料分散安定性の点から、0.6～2.0μmが好ましく、0.6～1.5μmがより好ましい。さらに、これらは、通常公知の表面処理を施したものも用いることが可能である。これらは、一種又は二種以上を適宜選択して使用できる。また市販品としては、TILACK D（赤穂化成社製）を例示することができる。

【0010】

本発明のパック化粧品における成分（b）チタン・酸化チタン焼結物の含有量は、パック化粧品中0.01～10%であり、0.1～5%がより好ましい。0

． 0.1%未満であると、塗布時の隠蔽力が十分でなく明確に識別できず、また被膜強度の向上効果が少なく、また、含有量が10%を超えると、使用の際に伸びしにくくなる。

【0011】

本発明のパック化粧料においては、上記必須成分に加えて、さらに成分(c)として水溶性増粘剤を配合することにより、パック化粧料のたれ落ちなどを防ぎ、肌への塗布のしやすさを向上させ、さらには、成分(b)チタン・酸化チタン焼結物の分散安定性を著しく向上させることができる。成分(c)の水溶性増粘剤としては、通常化粧料に用いられるものであれば特に限定されず、水溶性高分子、水膨潤性粘土鉱物、微粒子無水ケイ酸等が挙げられる。これらの中でも、優れた分散安定性向上効果を得るには、ベントナイト、モンモリロナイト、ヘクトライト、合成スメクタイト、水膨潤性フッ素雲母等の水膨潤性粘土鉱物や、不定形微粒子無水ケイ酸、酸化アルミニウム処理不定形微粒子無水ケイ酸、シリル化処理不定形微粒子無水ケイ酸等の不定形微粒子無水ケイ酸がより好ましい。具体的には、水膨潤性粘土鉱物としては、クニピア G-4、スメクトン SA-2 (クニミネ工業社製)、BENTONE MA、EW、LT、RV (Elementis社製)、SUBMICA E (大東化成工業社製)、不定形微粒子無水ケイ酸としては、AEROSIL 200、300、R972、R974、RX 300 (日本アエロジル社製)等が挙げられる。これらは、一種又は二種以上を適宜選択して使用できる。

【0012】

本発明のパック化粧料における成分(c)水溶性増粘剤の含有量は、特に限定されるものではないが、使用性、分散安定性の向上効果から、パック化粧料中0.01~10%が好ましく、0.1~5%がより好ましい。

【0013】

本発明のパック化粧料においては、上記必須成分に加えて、さらに成分(d)としてアニオン性界面活性剤を配合することにより、成分(b)の分散安定性を更に相乗的に向上させることができる。成分(d)のアニオン性界面活性剤としては、通常化粧料に用いられるものであれば特に限定されず、脂肪酸石鹸型アニ

オン性界面活性剤、アルキルエーテルカルボン酸塩型アニオン性界面活性剤、アシルアミノ酸塩型アニオン性界面活性剤、リン酸エステル型アニオン性界面活性剤、スルホン酸塩型アニオン性界面活性剤、硫酸塩型アニオン性界面活性剤などが上げられる。これらの中でも、優れた分散安定性向上効果を得るには、モノラウリルリン酸ナトリウム、モノラウリルリン酸ジエタノールアミン、モノラウリルリン酸トリエタノールアミン、モノラウリルリン酸カリウム、モノオレイルリン酸ナトリウム、モノポリオキシエチレンラウリルエーテルリン酸ナトリウム、モノポリオキシエチレンミリスチルエーテルリン酸ナトリウム、モノポリオキシエチレンセチルエーテルリン酸ナトリウム、モノポリオキシエチレンオレイルエーテルリン酸ナトリウム、ジポリオキシエチレンラウリルエーテルリン酸ナトリウム、ジポリオキシエチレンミリスチルエーテルリン酸ナトリウム、ジポリオキシエチレンセチルエーテルリン酸ナトリウム、ジポリオキシエチレンオレイルエーテルリン酸ナトリウム等のリン酸エステル型アニオン性界面活性剤や、アルキルベンゼンスルホン酸塩、オレフィンスルホン酸塩、アルカンスルホン酸塩、アルキルスルホコハク酸塩、アシルイセチオン酸塩、アシルタウリン塩等のスルホン酸型アニオン性界面活性剤、またはアルキル硫酸塩、アルケニル硫酸塩、エチレンオキシドまたはプロピレンオキシドを付加したアルキルまたはアルケニルエーテル硫酸塩等の硫酸塩型アニオン性界面活性剤がより好ましい。これらは、一種又は二種以上を適宜選択して使用できる。

【0014】

本発明のパック化粧料における成分（d）アニオン性界面活性剤の含有量は、特に限定されるものではないが、分散安定性の向上効果から、パック化粧料中0.001～5%が好ましく、0.01～1%がより好ましい。

【0015】

本発明のパック化粧料においては、上記必須成分に加えて、さらに成分（e）として美白効果を有する水溶性アスコルビン酸誘導体や消炎効果を有する水溶性グリチルリチン酸誘導体を、本発明の効果を損なわず、安定に配合することが可能である。成分（a）ポリビニルアルコールに成分（b）チタン・酸化チタン焼結物を組合わせて配合することにより、電解質である水溶性アスコルビン酸誘導

体や水溶性グリチルリチン酸誘導体をパック化粧料の保存安定性を損なうことなく配合することが可能となった。本発明に用いられる成分 (e) 水溶性アスコルビン酸誘導体は、通常美白化粧料に汎用されているものであれば特に限定されないが、具体的には、L-アスコルビン酸ナトリウム、L-アスコルビン酸カリウム、L-アスコルビン酸マグネシウム等のアスコルビン酸塩、L-アスコルビン酸リン酸ナトリウム、L-アスコルビン酸リン酸マグネシウム、L-アスコルビン酸リン酸カルシウム等のアスコルビン酸リン酸塩、L-アスコルビン酸硫酸ナトリウム、L-アスコルビン酸硫酸マグネシウム、L-アスコルビン酸硫酸カルシウム等のアスコルビン酸硫酸塩等が挙げられる。また、水溶性グリチルリチン酸誘導体は、通常消炎化粧料に汎用されているものであれば特に限定されないが、具体的には、グリチルリチン酸、グリチルレチン酸、グリチルリチン酸アンモニウム、グリチルリチン酸三ナトリウム、グリチルリチン酸ジカリウム等が挙げられる。これらは、一種又は二種以上を適宜選択して使用できる。

【0016】

本発明のパック化粧料における成分 (e) 水溶性アスコルビン酸誘導体及び／または水溶性グリチルリチン酸誘導体の含有量は、特に限定されるものではないが、パック化粧料中 0.001～10% が好ましく、特に 0.01～5% がより好ましい。

【0017】

本発明のパック化粧料には、上記必須成分の他に、通常化粧料に用いられる成分として、例えば、上述以外の界面活性剤、多価アルコール等の水性成分、酸化防止剤、紫外線吸収剤、香料、防腐剤、上述以外の顔料や染料などの着色剤、美容剤等を本発明の効果を損なわない範囲にて配合することができる。

【0018】

【実施例】

次に実施例を挙げて本発明を更に説明するが、本発明はこれによって何ら限定されるものではない。

【0019】

実施例 1～14 及び比較例 1～6：パック化粧料

下記表 1、表 2 に示す組成のパック化粧料を常法により調製し、（１）塗布のしやすさ、（２）識別のしやすさ（塗布箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果）、（３）はがしやすさ、（４）保存安定性の評価項目について下記の方法により評価し、結果を併せて表 1、表 2 に示した。

【0020】

【表1】

	成分	実施例														(%)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
1	ポリビニルアルコール(注1)	-	0.34	10.0	5.0	20.0	5.0	5.0	1.0	7.5	0.2	0.2	0.2	5.0	5.0	
2	ポリビニルアルコール(注2)	5.0	6.66	5.0	5.0	-	5.0	5.0	10.0	5.0	6.0	6.0	6.0	5.0	5.0	
3	チタン・酸化チタン焼結物	2.0	0.1	5.0	2.0	2.0	0.01	10.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	9.0	9.0	
4	黒酸化鉄	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	黒酸化鉄処理雲母	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	モノオレイン酸デカグリセリル	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
7	ジポリオキシエチレンラウリルエーテルリン酸ナトリウム	-	0.001	1.0	0.5	-	-	-	0.5	0.5	-	-	0.01	0.5	5.0	
8	エタノール	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	
9	1,3-ブチレンジグリコール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	
10	不定形微粒子無水ケイ酸(注3)	-	0.01	5.0	1.0	-	-	-	1.0	1.0	-	0.1	0.1	10.0	1.0	
11	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	
12	防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	
13	香料	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	
評価項目及び判定																
1	塗布のしやすさ	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	○	○	
2	識別のしやすさ(塗布箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果)	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
3	はがしやすさ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	
4	保存安定性 40℃	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	5℃	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	

(注1)PVA-205C(粘度(4%20℃)5.0~6.0mPa・s, クラレ社製)
(注2)PVA-224C(粘度(4%20℃)42.0~50.0mPa・s, クラレ社製)
(注3)AEROSIL 200(日本アエロジル社製)

【0021】

【表 2】

	成分	比較例 (%)					
		1	2	3	4	5	6
1	ポリビニルアルコール(注1)	-	25.0	5.0	5.0	5.0	5.0
2	ポリビニルアルコール(注2)	3.0	-	5.0	5.0	5.0	5.0
3	チタン・酸化チタン焼結物	2.0	2.0	0.001	15.0	-	-
4	黒酸化鉄	-	-	-	-	2.0	-
5	黒酸化鉄処理雲母	-	-	-	-	-	2.0
6	モノオレイン酸デカグリセリル	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
7	ジポリオキシエチレンラウリルエーテルリン酸ナトリウム	-	-	-	-	-	-
8	エタノール	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
9	1,3-ブチレングリコール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
10	不定形微粒子無水ケイ酸(注3)	-	-	-	-	-	-
11	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量
12	防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量
13	香料	適量	適量	適量	適量	適量	適量
評価項目及び判定							
1	塗布のしやすさ	○	×	◎	×	△	△
2	識別のしやすさ(塗布箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果)	◎	◎	×	△	◎	◎
3	はがしやすさ	×	△	△	△	○	○
4	保存安定性 40℃	◎	◎	◎	◎	×	×
	5℃	◎	×	◎	×	△	△

(注1) PVA-205C(粘度(4%20℃)5.0~6.0mPa・s, クラレ社製)

(注2) PVA-224C(粘度(4%20℃)42.0~50.0mPa・s, クラレ社製)

(注3) AEROSIL 200(日本アエロジル社製)

【0022】

(製造方法)

A: 成分(1)~(12)を80℃に加熱、溶解する。

B: Aを室温に冷却し、成分(13)を添加しパック化粧料を得た。

【0023】

[評価項目1~3の評価方法]

化粧歴10年以上の女性20名をパネルとし、各試料について、(1)塗布のしやすさ、(2)識別のしやすさ(塗布箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果)、(3)はがしやすさの各評価項目を下記(イ)5段階絶対評価基準を用いて評価してもらった。その後、各試料の評点の平均値を(ロ)4段階判定基準を用いて判

定した。

【0024】

(イ) 5段階絶対評価基準

(評点) (評価)

5点 : 非常に良好

4点 : 良好

3点 : 普通

2点 : 不良

1点 : 非常に不良

(ロ) 4段階判定基準

(評点の平均値)

(判定)

平均点 4.5 以上 : ◎

平均点 3.5 以上 4.5 未満 : ○

平均点 2.5 以上 3.5 未満 : △

平均点 2.5 未満 : ×

【0025】

[評価項目 4 の評価方法]

保存安定性の評価方法としては、表 1、表 2 に示すパック化粧料を調製し、調製直後と 40℃及び 5℃で 1 ヶ月間保存した時の変化（粉体の分散状態、ゲル化）を目視により観察し、以下の（ハ） 4 段階判定基準を用いて判定した。

【0026】

(ハ) 4 段階判定基準

(評価)

(判定)

全く変化なし : ◎

軽微な変化がある : ○

やや変化がある : △

かなり変化がある : ×

【0027】

上記表 1、表 2 の結果から明らかなように、本発明品の実施例 1～14 のパッ

ク化粧料は、比較例 1～6 のパック化粧料に比較して、塗布した箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果が明確に識別でき、塗布のしやすさ、はがしやすさといった使用性が良好で、且つ、経時における保存安定性に優れたものであった。

【0028】

実施例 15：ピールオフパック

(成分)

	(%)
1. ポリビニルアルコール (注 4)	10.0
2. ポリビニルアルコール (注 5)	7.0
3. ベントナイト	1.0
4. エタノール	10.0
5. 1, 3-ブチレングリコール	5.0
6. タルク	2.0
7. チタン・酸化チタン焼結物	1.0
8. セスキオレイン酸ソルビタン	0.5
9. ポリオキシエチレン (20) モノオレイン酸ソルビタン	0.5
10. ポリオキシエチレン (8) アルキルエーテルリン酸ナトリウム	0.5
11. L-アスコルビン酸リン酸ナトリウム	1.0
12. 精製水	残量
13. パラオキシ安息香酸メチル	0.2

(注 4)：ゴーセノール EG-05 (粘度 (4%, 20℃) 4.8～5.8 mPa·s, 日本合成化学工業社製)

(注 5)：ゴーセノール EG-40 (粘度 (4%, 20℃) 40.0～46.0 mPa·s, 日本合成化学工業社製)

【0029】

(製造方法)

A：成分 (1)～(13) を 80℃ に加熱、溶解する。

B：A を室温に冷却し、ピールオフパックを得た。

【0030】

実施例 15 のピールオフパックは、塗布した箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果が明確に識別でき、塗布のしやすさ、はがしやすさといった使用性が良好で、且つ、経時における保存安定性に優れ、更に美白効果に優れたものであった。

【0031】

実施例 16：粉体配合ピールオフパック

(成分)	(%)
1. ポリビニルアルコール (注1)	2. 0
2. ポリビニルアルコール (注2)	12. 0
3. シリル化不定形微粒子無水ケイ酸 (注6)	2. 0
4. エタノール	10. 0
5. 1, 3-ブチレングリコール	1. 0
6. タルク	2. 0
7. チタン・酸化チタン焼結物	1. 0
8. 無水ケイ酸	3. 0
9. スルホコハク酸ジオクチルナトリウム	0. 1
10. モノラウリン酸デカグリセリル	0. 5
11. グリチルリチン酸ジカリウム	0. 1
12. 精製水	残量
13. パラオキシ安息香酸メチル	0. 2

(注6)：AEROSIL R972 (日本アエロジル社製)

【0032】

(製造方法)

A：成分(1)～(13)を80℃に加熱、溶解する。

B：Aを室温に冷却し、粉体配合ピールオフパックを得た。

【0033】

実施例 16 の粉体配合ピールオフパックは、塗布した箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果が明確に識別でき、塗布のしやすさ、はがしやすさといった使用性が良好で、且つ、経時における保存安定性に優れ、更に消炎効果に優れたものであった。

【0034】

【発明の効果】

本発明のパック化粧料は、塗布した箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果が明確に識別でき、塗布のしやすさ、はがしやすさといった使用性が良好で、且つ、経時における保存安定性に優れた被膜形成型のパック化粧料であった。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】塗布した箇所、はがした箇所、皮膚清浄効果が明確に識別でき、塗布のしやすさ、はがしやすさといった使用性が良好で、且つ、経時における保存安定性に優れた被膜形成型のパック化粧料。

【解決手段】（a）ポリビニルアルコール 5～20質量%、（b）チタン・酸化チタン焼結物 0.01～10質量%を含有するパック化粧料。さらに、成分（c）として水溶性増粘剤を含有するパック化粧料。

【選択図】 なし

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2002-333010
受付番号	50201734229
書類名	特許願
担当官	第五担当上席 0094
作成日	平成14年11月19日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成14年11月18日

次頁無

特願 2 0 0 2 - 3 3 3 0 1 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 1 4 5 8 6 2]

1. 変更年月日
[変更理由]

1 9 9 1 年 8 月 2 3 日

住 所
氏 名

名称変更

東京都中央区日本橋 3 丁目 6 番 2 号
株式会社コーセー